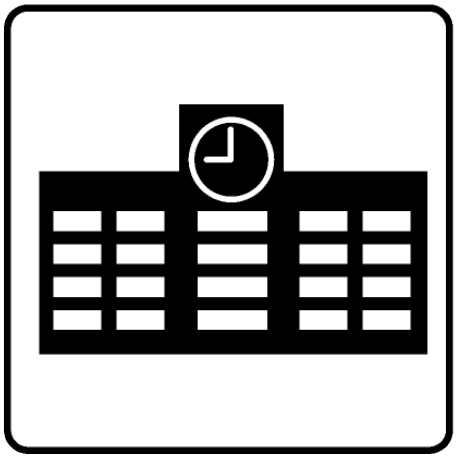
IR活動を通じた「学習成果ギャップの可視化」と「教育の質保証及び質向上策の検討」



学長・副学長・学長補佐・学部長
関係センター・委員会 等

報告・提言
（IR室と協働）

＊大学または学部としての教育面における
　得意分野・苦手分野
＊授業科目と身に付く能力の整合性
＊授業内容や試験方法の適切性
＊学生による自己評価の信頼性
等々・・・

施策立案・実行

（必要に応じて）
＊授業方法の改善
＊試験方法の見直し
＊新たな評価指標の開発
＊カリキュラム内容の見直し
等々・・・

ディプロマ・ポリシー、カリキュラムマップ、シラバス

抽出

大学として学生に身に付けて欲しい学習成果

可視化・比較分析

学習成果のギャップ

【想定されるケース】
＊大学として身に付けて欲しい学習成果が授業等で身に付いていない。
＊　　〃　　以外が授業等で身に付いている。
＊実際に身に付けることができた学習成果を学生自身が実感していない。
＊　　〃　　以外を身に付けることができたと実感している。
等々・・・

実際に学生が身に付けることができた学習成果

抽出

授業成績、PROG試験結果

学生自身が身に付いたと実感した学習成果

抽出

学生による自己評価（アンケート）